

秋田県総合防災訓練 in にかほ

■防災訓練

9月6日、秋田県総合防災訓練が市内を会場に開催されました。この訓練は県内13市を巡回して行われますので、にかほ市での開催は13年ぶりとなります。また、この訓練は県と市の地域防災計画にもとづき実施され、「災害発生時の応急対応について実践的な訓練を実施することにより、対応力の向上を図るとともに防災意識を高める」ことを目的としています。当日は55機関の800名が参加し、新たなメニューを組み込んだ実践的な訓練が行われました。

もちろん、市は単独での防災訓練を毎年行っています。今回の訓練との違いは規模感です。緊急車両の台数や救助ヘリの出動数などだけをみても、その違いは明確です。

■訓練の概要

県警・自衛隊・海保・消防等による捜索や救助訓練はもちろんですが、これまで見られなかったDMAT（災害派遣医療チーム・デーマット）、DPAT（災害派遣精神医療チーム・ディーパット）、DWAAT（災害派遣福祉チーム・ディーワット）といった災害派遣に関する専門家チームがはじめて参加しました。また、避難所には、動物愛護センターと動物愛護推進員の皆さんに協力いただきながら、ペット避難のためのエリアがはじめて設置されました。その他にも、災害ボランティアセンター開設・運営訓練や、遺体安置所開設・運営訓練の

実施など、これまでの実際の災害現場で明らかとなったさまざまな課題への対応訓練が組み込まれていました。

■防災意識の変化

今回の訓練想定は、ざっくりと「大雨災害により河川の氾濫や越水、土砂災害が発生し、レベル5緊急安全確保が発令されている最中に、M7.5（最大震度6強）が発生し、建物の倒壊などが起きた」といったものです。

この想定を「ちよつと大げさじゃない？」と多くの人が感じるかもしれません。正直、私も最初「ん？」と思いました。ですが、最近の能登半島や熊本の大地震と大雨災害により、今も多くの人が避難生活を余儀なくされている状況をみれば、今回の想定は決して大げさなものではないと思います。もはや「想定外」は通用しないのです。

近年、人々の防災意識は着実に高まっています。特に、国が自主行動を促すための環境整備をすすめながら国民の行動変容を促す仕組みづくりをしていることもあって、人々の防災意識は「防災Ⅱ行政によるものといった受け身の姿勢」から「防災Ⅱ日常生活の一部として捉える姿勢」へと確実に変化してきています。

■備える

防災のキーワードは「備える」です。それは単に物品の備蓄だけでなく、防災訓練や防災教育といった啓発による動機付けも災害に備えることに他なりません。一度災害が発生すれば被害ゼロはあ

りえません。誰しもが多かれ少なかれ何らかの被害にあいます。だからこそ普段から、自ら備える（自助）・周囲と協力し合う（共助）・公的支援を知る（公助）について意識的に取り組むことが大事です。そして、私たちは自分の命を守ることを基本にしたうえで、子ども、高齢者、障がい者といった社会的弱者の命をどのように守っていくかを追求していかなければならないのです。

今回の総合防災訓練では防災フェアも開かれました。関係機関によるブースが設けられ、子どもから大人まで多くの市民が見学に訪れていました。そのブースの一つで、「災害時における外国人支援のあり方」を研究している仁賀保高校3年生 倉田菜々美さんが活動報告をしていました。その内容は災害時に取り残されがちな外国人たちのために避難場所や避難経路を視覚記号化したカードを作成し、それらをわかりやすく伝えていこうというものです。高校生である彼女が新たな視点で地域防災の向上を図ろうとする取組みと姿勢は、間違いなく、地域の防災力を継続的に高めていく大事な一歩になると私は考えています。



にかほ市長
市川雄次

市政運営から日常の出来事まであらゆるテーマをコラムにしています。過去のコラムは市HPからご覧になれます。

